

最新刊書籍のご紹介



自分の国は自分で守れ
大川隆法著
幸福の科学出版 1500円＋税
2017年9月28日発行
(目次と一部抜粋です。)

まえがき

つくづく、この国の政治は、嘘と、政治家の国内的打算で出来上がっているとと思う。

北朝鮮の核・ミサイル危機の中、安倍首相は、国連でアフリカ諸国にまで協力を求めたが、今朝の新聞報道では、今月二十八日の臨時国会冒頭、所信表明直後に解散すると書いてある。

民進党のダッチロール、小池新党の準備が間に合わない時機を狙います。自らの「疑惑隠し解散」である。北朝鮮危機を争点とせず、煙幕として使って、選挙での勝ちだけを願う。そしてその争点は、「二〇一九年秋に8%から10%に上げる消費税の使途を、国の借金返済中心から幼児教育の無償化などのバラマキに振りかえる」という、民進党の政策をパクッての事実上の「争点つぶし」の解散である。

北朝鮮は、選挙期間を最も攻撃しやすい弱点と考えているのである。「アメリカ単独で勝手にこの国を守ってくれ」と言っているに等しかろう。
二〇一七年 九月二十日

第1章 あきつめない心

1 「北朝鮮・核実験」の一時間後、青森で講演

北朝鮮は、水爆を大陸間弾道ミサイルに搭載可能になった？
2 幸福実現党が八年間訴えてきたとおりの危機が
二〇〇九年、北朝鮮のミサイルで旗揚げをした幸福実現党

ここで事実確認をして
おきたいと思えます。
二〇〇九年に幸福実現党を立党したのは、北朝鮮のミサイルが日本列島越えをして飛んだ直後なのです（注。北朝鮮によるミサイル発射実験が行われたのは二〇〇九年四月五日、「幸福実現宣言」が出たのは同年四月三十日、幸福実現党の立党は同年五月二十三日である）。



2009年8月当時の政策パンフレット

そのときの日本政府の対応を見ていて、「これは駄目だ」と判断し、「とにかく意見を言わなくてはいけない」ということで、幸福実現党を立党したわけです。

政治のほうの動きが悪いのであれば、やはり、少しづつかなくてはいけません。そのため、われわれは、かなり無理は承知の上で、「国難来たり」と思っ

北朝鮮は、二〇〇九年に日本列島越えのミサイルを撃ったとき、「これは人口衛星の発射実験だ」と発表していました。また、その前の一九九八年に日本列島越えで撃ったときにも、「観測用の人工衛星の発射実験だ」と言っていました。

そして、日本のテレビ局等も、「人工衛星の発射実験」とか、「謎の飛翔体が飛んだ」とか、そんなことばかりを言っていたのです。

しかし、北朝鮮がミサイルの発射実験を行っているのは明らかに分かっていたので、「これは駄目だ。早く対応しなければ準備ができない」と私は思っていました。

それで、宗教団体としては、まことに切ない、苦しい判断ではあったのですが、「幸福を実現するには、宗教としての考えや思いだけでは通じないも

のもあるので、この世的に考えなくてはならないこともあるだろう。『具体的な事実をどうしていくか』ということはあるけれども、根本的なところでは、やはり、考え方や思想、哲学、宗教的信条から見ると、『正義とは何か』ということ、あるいは『世界的基準での正義や地球的レベルでの正義とは何か』ということも、もう一回、きちんと立ち立てなければ駄目だ』という観点から、私たちは活動を開始しました。

幸福実現党をほとんど報道しなかったマスコミ

しかし、当時の日本では、まだ「平和ボケ」が続いていたので、幸福実現党がとて突拍子もないことを言っているように見えたらしいのです。

私たちは全国各地で活動しましたし、私も街宣や講演を数多く行いました。テレビ局や新聞社は、たくさん取材に来ていました。

ところが、全部を収録し、記録しながら、判で押したように、それをどこも報道しなかったのです。カチッと協定を守っているような感じだったので、それは、おそらく、上層部のほうでの申し合わせなのではないかと思えます。見事に報道しませんでした。

あのときに「国防のための政党を立ち上げた」ということには、「話題性がない」とは言えなかったと思います。当時、そういう判断をマスコミがしていれば、それから現在までの間に（準備をする）時間が八年間もあったのです。

私の予想どおり、消費税増税によって失敗した「アベノミクス」

そして、安倍さんが再び首相になり、「アベノミクス」を推進しましたが、あれは、私が言っていたとおりのことをやっていたのです。（注。幸福実現党の二〇〇九年当時の経済政策として、インフレ目標と大胆な金融緩和、未来産業の育成、消費税の撤廃などを掲げていた）

ただ、私は、「上げたら失敗するから、消費税上げだけはするな」と言っていたのですが、どうしても、そこはつながらなかったようです。そのため、消費税率を五パーセントから八パーセントに上げた（二〇一四年四月）瞬間に「アベノミクス」は失速し、崩壊しました。

（安倍政権は）大手のマスコミを押さええているため、「失敗」という記事や見出しは出ませんが、事実上、失敗しているのが、最近「アベノミクス」と言わなくなりました。まったく言わないのでしょうか？ それは失敗しているからです。

私は、「デフレから脱却し、経済が巡航速度で上がっていくようになり、余裕が出れば、消費税率を上げることも可能ではあるでしょう。しかし、デフレから脱却する前に消費税率を上げてしまつたら、要するに、『金が欲しい』と思っ

マスコミの報道の基準は、いかにげんまもの

「三」の欺瞞

3 「金正恩守護霊vs.トランプ守護霊宣言」の衝撃度

また、八月三十一日に発刊した『緊急守護霊インタビュー 金正恩vs.ドナルド・トランプ』は、その二日前、二十九日の午前中に北朝鮮のミサイルが北海上空を飛んだのを受け、その日の午後に幸福の科学総合本部で収録したものです。要するに、収録の二日後には本が出ていうことです。この速度で出版できるというのは普通ではありません。限りなく新聞に近い速度で出しています。



しかも、トランプ氏守護霊のほうは英語霊言だったため、日本語に翻訳しなければなりません。

英語部分を担当した幸福の科学国際本部の編集局では、徹夜で翻訳して原稿をつくったのではないのでしょうか。誤植があったりすると笑われるので必死にチェックし、一日で原稿をつくり終えて、すぐに印刷し、緊急出版したという状況です。

全国紙に幸福の科学の霊言集の広告が出せる理由

北朝鮮ミサイルへの対策が後手に回る日本の現状

4 金正恩の「離間の策」に騙されるな

日米韓に心理作戦で揺さぶりをかける北朝鮮
米軍と共同防衛しないかぎり、今の日本は守れない

日本は、二〇〇九年の北朝鮮によるミサイル発射以降、この八年間の眠りのなかで何らの対策も打てていないので右往左往するとは思いますが、少なくとも、相手は、昔の戦略・戦術で言う「離間の策」というものを使っています。これは、共同、同盟しているもの同士を仲違いさせようと謀ることです。

5 日本経済を再生させるために必要なこと

消費増税は、なぜ日本経済にこれほどダメージを与えるのか
高齢者を祝福できるような国へ
経済を遅らせている大きな原因は「税制」と「規制」
ソ連邦を崩壊させた「レーガノミクス」

6 全体主義国家・北朝鮮を、これ以上放置するな

今、冷戦の最終決着をつけるかどうかの時期が来ている
卑怯者の考え方に乗ってはいけない
日本は、国としての「あるべき姿」を守れ

日本は、国としての「あるべき姿」をきちんと守るべきです。パキスタンやインドでさえ、お互いに核武装をして警戒している状態ですから、日本であれば、少なくともイギリスやフランスレベルの力は持つていて当然だと思います。国際的にも、それだけの信頼感はあるはずですし、日本がそれほど暴走して変なことをするのは誰も思っていないでしょう。

日本は、もう少し自信を持たなければいけないと思います。そのために、私はいろいろな本を出して日本の正義を実証してきました。確かに、先の大戦では、日本に一部行きすぎたところがあったかもしれませんが、植民地戦争による白人支配が五百年間ずっと続いてきたことに対して、欧米のほうは何も謝っていないわけです。それを考えると、日本としても、反省しすぎて自分たちを無防備にさらすべきではないでしょう。そこは気をつけたいほうがいいと思うのです。

害虫や子供の悪さにたとえられる「北朝鮮問題」
「正気を失った指導者」への対処は理性的に考えよう

第2章 自らを人財に育てるには

正直な言葉の上に、この国の未来を築け

1 台風18号直撃のなか、四国・新居浜で講演

2 日本を引っ張っていきける人財になるための四つの条件
「教育」が、資源のない日本の国力を富ませた

3 人前で話すことの終わりになき修行
最初は小さな場所でも、そこで評判を大きくすること
都市部での街宣で、私が大きな声を出す理由
情熱に加え、「具体的に実現するための詰め」が大事

4 自民党の「バラマキ選挙」で、一千兆円の借金が
「マイナス金利」は資本主義の精神に反している
「善の循環」があつて初めて経済は発展していく

5 国民が飢えても核開発する指導者は追放すべき
「アベノミクス」が失速し、経済について言わなくなった安倍政権

6 国民全体の幸福を願わないような政権であつてはならない
「国民全体の幸福を願わないような政権であつてはならない」
安倍首相の外交には、実は二つの問題点がある
日本は、北朝鮮に対して明瞭な言葉を使って話せ
日本の生存権をほかの国に委ねてよいのか

7 日本は、北朝鮮に対して明瞭な言葉を使って話せ
日本の生存権をほかの国に委ねてよいのか

8 現在、元寇、明治維新に続く三番目の「国防の時代」
宗教が政治に繰り出すのは、おかしいことではない
今、日本に、「三番目の改革」が必要な時が来ている